

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102210		
法人名	医療法人社団 郁栄会		
事業所名	認知高齢者グループホーム サンライズ菱形		
所在地	熊本県熊本市北区植木町滴水1703-3		
自己評価作成日	令和4年 1月 8日	評価結果市町村報告日	令和4年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医院であるため医師との連携が図りやすく、入居者の状況を速やかに報告し対応・相談が可能である。また、同法人の他の施設との協体制も交流を図ることが可能である。ホームには理学療法士もいるため、個人の身体機能に応じた訓練などの実施が可能である。ホームでは季節のイベント等を大切に、日常的に季節を感じて頂いたり、入居生活に楽しみを持って頂けるよう努めている。また、楽しみの一つである食事は管理栄養士が献立を立てており、旬の食材やバランスの取れた食事を摂ることができる。敷地内に畑もあり、作物の収穫や収穫した物を調理し食べることも楽しみに繋がっている。入居者には其々担当職員を配置しており、身の回りのことや物品管理等を行い、安心して入居生活を送れるよう努めている。コロナ禍においても面会体制を工夫し実施、広報誌の発行、文書にて毎月状況報告を行い家族との繋がりが途切れないように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人医療機関・関係事業所との連携もよく、入居者・家族の安心も大きい事業所です。開設4年目となり、入居者の生活も落ち着いた中でのコロナ禍で、面会や気軽な外出が難しい状況が続く中、職員外出の際には入居者も同乗し、自宅近辺への周回等、工夫した機会作りも行われていました。食事は関連事業所からの配食ではありませんが、麺料理やサンドイッチ作り等、事業所での調理も取入れられており、その際には味見や硬さの確認等、調理そのものが難しい入居者にも共に関ることが出来る場の提供がなされています。職員の協力により、生活全般に入居者楽しみ事作り、選択の場面作り等支援が行われています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年 3月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(百合)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔』『安らぎ』『感謝』の理念をフロアに掲示し、日頃より意識してケアにあたるよう心掛けている。また広報紙にも記載し、職員会議等でも時折理念について振り返る機会を持ち共有できるよう努めている。	事業所開設3年が経ち、事業所理念は職員で共有しケアに繋がっている。管理者は職員会議の際に継続して職員に伝え、日々の申し送りの際に振り返りの大切さを伝えている。	職員会議等を利用した理念の共有に努められ、職員は法人での勤務歴も長いことから日頃のケアに活かされている様子が聞かれました。開設3年を機会に、グループホームの役割と特徴、理念に繋がる介護計画等について振り返る機会を作られてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響により、地域活動への参加等外部との関りは制限している。	例年、地域住民の訪問もよく見られるが、コロナ禍で地域とのつながりを感じる機会作りが難しかった。今年度は自治会役員の方々の訪問を受け、挨拶を頂いた。事業所の運営・活動状況は運営推進会議資料として書面にて報告を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため地域のサロンも中止となり関りが制限されているが、自治会からの見学依頼には入居者との接触を避け、十分な感染対策を取り可能な範囲で受入れを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響により運営推進会議の開催は見合わせている。地域・家族代表、地域包括支援センターへは文書にて状況報告を行なっている。今年度は民生委員の訪問もあり、状況をお伝えしている。	感染症拡大の懸念から運営推進会議の開催は難しい状況であり、書面による報告を行った。会議メンバーである地域役員の方々にも報告を行い、地域との関係作りにも努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの調査依頼等には随時対応し連携を図っている。事故が発生した場合は速やかに報告、情報の伝達を行い指示を仰いでいる。	事業所の運営状況・活動は運営推進会議の資料にて報告している。日常的な連絡・相談は電話・FAXが主となっている。今年は行政から感染対策についての調査依頼もあり、そのような際は随時対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針等を備え付け、いつでも閲覧できるようにしている。また勉強会を行い情報の共有、知識の向上を図りスピーチロックも含め拘束しないケアに努めている。玄関については防犯上の都合により施錠しているが、希望時には解除し職員が付き添い屋外へ外出できるよう支援している。	法人で「身体拘束ゼロ対策委員会」を開催し、内容は職員間で共有している。昨年度は身体拘束のグレーゾーンを通じたゼロ対策、今年度は虐待防止の為に指針作成に取り組んできた。事業所でも年2回の勉強会を行い、事業所での学びに加え、年間報告会では全職員がコメントを提出し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を行い知識の向上に努めている。また昨年に引き続きオンラインでの講習も受講でき学習機会を得ており、普段から虐待防止について確認し合えるよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内での勉強会を行い知識の向上に努めている。実際に後見人制度を活用されている方もあり、活用の背景等も学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時に見学や面談を行い、入居前にも再度やサービス内容・契約内容について説明を行なっている。書類は持ち帰り熟読して頂き、不明な点は改めて説明した上で契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱を設置しており、要望を気軽に伝えられるよう関係性の構築に努めている。また、面会や電話にて受けた相談は管理者へ伝え記録にも残し情報共有できるようにしている。	日頃からの家族とのコミュニケーション作りにより意見を出しやすい関係を築いている。感染症対策及び社会情勢を考え、工夫の上できるだけ面会を受け入れた際、管理者や職員より状況交換を行っている。家族から気になった点等連絡を頂いた例もあるが、その際は事業所で共有し対応の検討を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回各ユニット会議、職員会議を実施している。職員会議には法人の幹部も参加しており、各ユニットから出た意見を出し合い検討を行なっている。	管理者は日頃の業務内でも職員の意見や提案を聞く体制を持っている。ユニットそれぞれの会議、全体の職員会議を各月1回行っている。職員会議には法人からの参加もあり、職員は運営に関する意見・提案を直接述べることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の体調や家庭環境等を考慮した労働体制を整えている。年に1回は法人幹部との面談もあり、其々の現状報告や相談の場となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため人数を制限し法人内での範囲で研修を受ける機会を設けている。その他、オンラインによる講習や文書回覧等工夫し学習機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため外部との交流は制限しているが、必要に応じては電話等で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談に来て頂いたり、入居希望者の訪問調査を行っている。本人をはじめ関りのある方々より情報収集を行いニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何度か家族に訪問して頂きホームの生活を見て頂いている。その際に家族の思いや要望等を確認し、安心して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や訪問調査を行い、状況をよく確認した上でグループホームでの対応が困難なケースの場合は十分に説明を行い、多職種と連携を図り他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で其々の残存機能を生かし家事活動にも参加して頂いている。食事の準備の際には味付けや麺のゆで具合、畑作業や季節の行事の際にはアドバイスを頂くこともあり、共に生活している者としての関係性を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため感染のリスクレベルに応じ面会体制を検討し対応している。面会の際には近況報告を行い、要望等確認するようにしている。また、広報紙の発行や毎月居室担当者より現状報告を兼ねたメッセージを家族へ送付している。玄関にも広報紙を掲示し、キーパーソン以外の家族にも日常の様子を見て頂けるよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため家族以外の面会はあまりないが、電話や手紙の返送等はタイムリーに行なえるよう支援し、関係が途切れないように配慮している。	感染症拡大の懸念から従来のような気軽な訪問受け入れは難しい関係であったため、特に家族との関係が途切れないよう支援を行った。毎週連絡を頂ける遠方のご家族もみられる。通信アプリの利用が可能な際には、ケアマネージャーを中心とした介護計画説明等、顔の見える環境作りにも取り組んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や関係性・認知症状等を考慮した上で席の配置を行なっている。程よい距離を取りつつも孤立しないよう仲介したりレクリエーションを行ったり等関りが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族や関係者と連絡を取り、必要に応じては相談にも対応している。また、家族が訪問しやすいような関係性が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	危険のない範囲でできるだけ本人の意思に副えるよう努めている。意思表示が困難な方でも日頃の関りや言動等から汲み取り、カンファレンスを実施し統一したケアができるよう努めている。	ユニット間で入居者の状況は異なるものの、年々意思表示が難しくなった入居者も増えてきた。これまでの生活の参考に状況の把握をしながら職員との寄り添いで思いや意向を把握している。家族への状況報告等の際には家族の意向も確認し、得た意向は職員間での共有を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集の際より生活歴の把握に努めている。それらの情報を加味しつつ、日々の会話ややり取りから暮らし方の把握に努め、必要時には改めて家族へ確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の活動内容や状況、心身の変化を記録に残し情報を共有している。定期的に介護計画の評価・アセスメントを行ない変化の有無や現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には計画作成担当者、居室担当者を中心にカンファレンスを行い意見交換を行なっている。その他、ユニット会議の際にも日常の様子についてカンファレンスを行うこともあり、挙がった意見を反映したケアプランの作成に努めている。	入居者それぞれの担当職員により毎月末評価を行っている。計画作成担当者と担当職員は随時入居者の状況を共有しており、カンファレンスも出勤職員で随時行っている。日々の入居者の状況に変化が見られた際は、随時介護計画の見直し・変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や取り組み内容等を介護記録に残し、出勤時には其々目を通し情報の共有に努めている。カンファレンスでの決定事項や重要なポイントはユニット内だけでなく全体で把握できるよう、職員会議時に伝達を行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じ病院受診の調整や通院支援を行なっている。協力医療機関の医師の指示の下、看護師によりホームで点滴を実施、膀胱留置カテーテルの管理等状況に応じ柔軟に対応するよう努めている。		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域との積極的な関わりが持てていないが、地域の移動図書館を利用し、本や紙芝居を借り日常の余暇時間に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の面談時に希望の受診先を確認している。入居を機に当事業所の協力医療機関へ変更されることが殆どであるが、その際は前医からの情報提供書を頂き、適切な医療の継続ができるよう支援している。専門科に関しては引き続き入居前の医療機関を受診を継続して頂き受診支援を行なっている。	入居以前のかかりつけ医の継続した受診を支援するが、現状、入居者時には殆どの方が協力医による受診を希望される。協力医の通院は職員介助による。その他専門医等への通院は家族支援を基本とするが、感染症拡大の懸念から現在は職員による支援を行っている。医師への説明が必要な際には家族と共に職員も受診に付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調の変化や普段と違った様子が見られた時はすぐに看護師へ報告し、指示を受け適切な対応ができるよう努めている。看護師不在時には電話にて報告し指示を仰ぐ他、協力医療機関からの指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には入居者の状況を的確に伝え、安心して治療を受けられるように努めている。また、入院先と連絡を取り合い可能であれば訪問し状況確認や今後についての相談を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「重度化した場合の指針」や、急変時の対応等について家族へ説明・確認を行なっている。状況の変化に応じ事業所内のできることで、できないことについて説明し家族の意向を確認している。	入居時に重度化や終末期・緊急時の事業所の指針や対応を説明し、家族の意向を確認している。実際にその時期を迎えた際には医師等関係機関と連携し支援に取り組む。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍以前は消防署にて救急蘇生法の講習を受講していた。現在は実施できていないが、事業所内で看護師により急変時の対応についての勉強会を実施している。その他、事業所内に救急マニュアルの設置や各フロア内に救急蘇生法を掲示日頃から確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(昼間・夜間想定)で防災訓練を実施している。緊急連絡網を作成し各自携帯している他、災害時のマニュアルをいつでも閲覧できるよう設置している。法人にて「台風上陸・接近時における確認事項」を作成しており、事業所独自の項目も追加し事前に対策を講じている。近隣にある同法人の職員とも協力体制について話合っている。	防火避難訓練は昼・夜想定で年2回行い、入居者も数名ではあるが参加している。「台風上陸・接近時における確認事項」に基づき事業所での手順は職員へ周知している。感染対策に関する書面も整えている。日常業務の中では「火気関係自主検査チェック表」により毎日チェックを行っている。	

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉遣いには注意し、馴れ馴れしい言葉遣いは慎むよう注意している。共同生活の中においても、そのプライバシーや尊厳を損ねないよう発言内容やタイミングには配慮している。	日頃のケアで、言葉遣いや居居へ入る際のノックや声掛け等配慮している。入居者によっては安全面からトイレ施設が心配な例もあるが、そのような場面では特に配慮し、統一したケアを行っている。	入居者と過ごす時間も長くなり、入居者との親しみから時には配慮が必要な場面が見られた例もあるようです。振り返りや意識共有の機会の継続に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる方についてはわかりやすい言葉で伝え、気持ちの表出がしやすくなるよう心掛けている。意思表示が困難な方に対してはその時々々の表情や行動をよく観察し、希望の把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や一部の日課についてはある程度時間の目安を定めているが、必ずしもその時間通りに行うのではなく、一人ひとりのその時々々の状態に合わせて柔軟に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後等の整容には特に気を付けて行なっている。衣類の選定も個人の好みを尊重しているが、違和感のないよう注意している。また、汚染時には声掛けを行い更衣していただくよう心掛け、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを一部一緒に行なっている。また一人ひとりの好みや能力に応じて食事形態を適宜調整している。また、食器の選択や盛り付けにも注意を払い、視覚からも食事を楽しんで頂けるよう配慮している。	法人事業所で調理された食事を事業所で盛り付け配膳し提供している。毎月行事の際の松花堂弁当や、時にはパン食等バラエティ豊かな献立である。毎週麺類を提供される際には事業所で調理し、味見や固さのお尋ね等、入居者も調理に関わる様子も見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立てに栄養バランスが整った食事を提供している。食事摂取量を記録に残し摂取状況の確認を行なっている。水分の入りが悪い方に対してはゼリー状にして提供したり、好まれるものを提供する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアを実施できている。自力で十分にできない方については介助で行い、義歯を使用している方は夜間は外し、洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。必要時には歯科往診を依頼し治療が受けられるようにしている。		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在は大半の方が自分の意思でトイレに行かれるが、そうでない方に対しては排泄パターンを把握し適切と思われるタイミングでトイレ誘導し不快のないよう努めている。またオムツ類の種類も排泄状況や皮膚状態に応じて見極め選択している。	入居者が歩ける間、特に日中はトイレでの排泄を支援している。各ユニットに2ヶ所ずつあるトイレでは、入居者のトイレ使用状況に応じてゴミ箱設置場所等の工夫や臭気に配慮している。パットやオムツの選択や使用開始についてはカンファレンスで検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動の促し、食物繊維粉の使用等で便秘の予防に努めている。また申し送りにて数日排便がない方の情報共有に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週2回としているが、極力本人の希望に応じた時間やタイミングで実施するよう努めている。其々の好みや状況に合わせて浴室内の温度や湯温を把握し支援している。また、入浴が困難な時には足浴や清拭ドライシャワー等状況に応じて対応している。	体調や気分により変動もあるが、基本的に週2回以上の入浴を支援している。入浴の際には入居者に希望する時間を尋ねる等臨機応変に対応している。入浴が困難な際には特に清潔に配慮し清拭等行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体力や体調、疲労度に応じて適宜休息を促している。午睡の時間帯や長さも日中の活動状況や夜間の睡眠状況により検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表と説明書をファイル化しており、内容が確認しやすいようにしている。トリプルチェックを行い誤薬防止に努め、与薬方法も其々に応じた方法で行い、確実に投薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や手作業等の役割をもつていただくほか、一人ひとりが好まれるレクリエーション活動等行なっている。月毎に行事を計画し、フロアに予定を書き出し楽しみを持って頂けるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響にて控えているが、同法人施設への食事取りに同行して頂いたり、病院受診等に出た際にはなじみの場所近辺をドライブしている。日常では天候のいい日には屋外へ出て敷地内の散歩や外気浴を行なっている。	以前のような気軽な外出が難しい時期は続いているが、毎日車で関連事業所へ食事を取りに行く時間を利用し、近隣の周回や入居者の自宅近くを回ったりしている。気候が良い日には散歩や敷地内で外気を感じる時間を設けている。	

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として事務所の施錠できる場所に保管しており必要な時に使えるようにしている。現在は希望されたものや必要な物は職員が代行し購入を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には職員よりご家族へ電話をかけ本人へ取り次いでいる。馴染みの方よりハガキが届くこともあり、できるだけ返信して頂くよう促し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清掃に努め、気持ちよく過ごして頂けるよう努めている。入居者に合わせた室温管理を行い居心地の良い空間を提供できるように心掛けている。また、壁面等に季節の飾りを飾る等季節感を感じられるよう配慮している。	共有空間、廊下等には入居者の写真が飾られており、日頃の生活の様子を感じることができる。入居者の性格や様子に配慮し、時には席の配置換えをしたり、車椅子利用が増えた際には大きなソファを配置換えしたりと、安全面にも配慮し過ごしやすい生活環境としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時の座席の配置は決めていいるが、それ以外の時間は其々が思い思いの場所で過ごされている。日光浴をされる際には椅子を移動させたり、状況に応じて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの状態に応じた室内の配置を工夫している。またテレビや家族の写真やぬいぐるみ等それぞれ持ち込まれた物を設置されている。備え付けの筆筒はあるが、自身で持ち込まれたチェストを使用されている方もいる。	洗面台も設置された居室には押し入れもありすっきりと整理整頓されている。使い慣れた生活用品や家族写真、ソファを持ち込み等、家族を感じることのできる居室もよく見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助バーや夜間みのポータブルトイレ設置等、安全面に配慮した環境の整備に努めている。また、居室がわからなくなる方には表札を付ける等して自室が認識しやすいよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102210		
法人名	医療法人社団 郁栄会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム サンライズ菱形		
所在地	熊本県熊本市北区植木町滴水1703-3		
自己評価作成日	令和4年 1月 8日	評価結果市町村報告日	令和4年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和3年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であるため医師との連携が図りやすく、入居者の状況を速やかに報告し対応・相談が可能である。また、同法人の他の施設との協力体制もあり交流を図ることが可能である。ホームには理学療法士もいるため、個人の身体機能に応じた訓練などの実施が可能である。ホームでは季節のイベント等を大切に、日常的に季節を感じて頂いたり、入居生活に楽しみを持っていただけるよう努めている。また、楽しみの一つである食事は管理栄養士が献立を立てており、旬の食材やバランスの取れた食事を摂ることのできる。敷地内に畑もあり、作物の収穫や収穫した物を調理し食べることも楽しみに繋がっている。入居者には其々担当職員を配置しており、身の回りのことや物品管理等を行い、安心して入居生活を送れるよう努めている。コロナ禍においても面会体制を工夫し実施、広報誌の発行、文書にて毎月状況報告を行い家族との繋がりが途切れないように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(薔薇)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	百合ユニットと同じ		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	百合ユニットと同じ		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	百合ユニットと同じ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	百合ユニットと同じ		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	百合ユニットと同じ		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	百合ユニットと同じ		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	百合ユニットと同じ		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	百合ユニットと同じ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	百合ユニットと同じ		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	百合ユニットと同じ		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	百合ユニットと同じ		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	百合ユニットと同じ		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	百合ユニットと同じ		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	百合ユニットと同じ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	百合ユニットと同じ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	百合ユニットと同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	百合ユニットと同じ		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	百合ユニットと同じ		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	百合ユニットと同じ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	百合ユニットと同じ		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	百合ユニットと同じ		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	百合ユニットと同じ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	百合ユニットと同じ		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	百合ユニットと同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	百合ユニットと同じ		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	百合ユニットと同じ		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	百合ユニットと同じ		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	百合ユニットと同じ		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	百合ユニットと同じ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	百合ユニットと同じ		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	百合ユニットと同じ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	百合ユニットと同じ		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	百合ユニットと同じ		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	百合ユニットと同じ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	百合ユニットと同じ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を尊重し入居者に合わせた対応を行い、プライバシーを損ねないように努めている。言葉遣いには注意し入居者が不快にならないよう職員間で注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションから入居者が希望や思いを伝えられるように声掛けの工夫をしている。意思表示が困難な方でも表情や行動から把握できるよう環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や体操等の時間はある程度きまってはいるが強制することはなく、基本的には本人の意思に任せている。また、入居者のその日の体調に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容を欠かさずに行っている。その人らしい身だしなみが保てるようにしている。可能な方はご自身で服を選んで頂き、季節に合った服装を着て頂けるよう支援している。理美容にも順次お連れし、愛用されている化粧品など継続して使用できるよう家族への依頼だけでなく買い物の代行等も行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け(テーブル拭き・トレーやタッパー拭き)を入居者と一緒に行っている。肉が摂取できない方へは魚を提供し、食事形態も個人の状況に応じて適宜対応している。入居者の食べたい物を把握して希望は栄養科ミーティングで伝えている。また、年に1回は入居者の希望に副ったメニューを考え、一緒に調理する機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時に得た情報を参考にした食事量で提供しているが、希望があればその都度検討し提供している。摂取状況を把握し必要時には高カロリーゼリーの提供を行っている。水分摂取が少ない方には好みの物やゼリー状にして提供しこまめに水分補給出来るようにしている。		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアが出来る方には声掛けを行い、介助が必要な方にはその都介助を行っている。義歯洗浄剤の使用や口臭予防剤等その方に合った物を選択している。必要な時は訪問歯科での治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、職員間で共有出来るようにしている。排泄パターンを把握し時間を見てトイレの声掛けを行い、必要な方は誘導を行っている。使用しているパンツやパットも見直しその方に合ったものを使用できるよう都度検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳を提供し、水分摂取が少ない方には、好みの飲み物を提供し水分量を増やす等工夫している。食事時に食物繊維粉の使用や腹部マッサージ、散歩等の運動の促し等個々に応じた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は本人の希望やタイミングで行い、一人一人がゆっくり入れるように配慮している。室温や湯温等も本人の好みに合わせ対応している。その日の体調に合わせて入浴を見合わせ清拭や足浴の実施等柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴や運動、レクリエーション活動を通して生活リズムを整え、夜間の安眠が図れるよう努めている。日中は其々のペースで自室での休息を取られており、自らできない方は状況を見極め適したタイミングでの休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服伝票・内服説明書はいつでも確認できるようにしている。内服の変更があった際は、体調の変化等も観察し評価を行っている。内服方法もその方に合った服薬方法を記載し、全職員が把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好まれるレクリエーションの実施、個人活動や家事活動の促しをしている。毎月季節に合った作品作りやイベントを計画し季節感を味わって頂けるようにしている。新聞を読まれる方には毎日提供し、楽しみを持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援	コロナの為積極的な外出は行っていない		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	が、声掛けし施設周りの屋外散歩や外気浴を行っている。食事取りのドライブにお連れして気分転換が図れるよう努めている。		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として事業所の施錠できる場所に保管している。コロナ禍にて外出は控えているが、食べたい物や必要な物があれば職員が購入代行を行い、希望時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族よりプレゼントが届いたり、友人から手紙が届いた時等には、こちらから電話や返事の手紙を出すよう促し支援している。希望時にはいつでも電話をかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が過ごされる場所は不快にならない様室温調整を行っている。環境整備やこまめな換気を行い、居心地良く過ごせるように努めている。季節の花や作品を飾り四季を感じて頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の椅子に座り日光浴を行ったり、テーブル席以外でも三連椅子に座り、談笑やテレビ視聴等、共用空間の中でも思い思いに過ごせる時間も確保できている。夫婦で入居されている方には二人の空間も保てるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や思い出の品、ソファやタンス等を持ち込まれ使用されている。本人の動きに支障がないように配置を工夫し、居心地よい空間を作るように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札をし利用者が分かるようにしている。席の配置やベッドの位置・向き等は入居者のADLに応じて行い、動線の確保をし危険防止に努めている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 サンライズ菱形

作成日 令和 4年 4月 13日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26 27 36 37 38	理念やグループホームの 特徴・役割に基づいたケ アへの取り組み	理念の共有を図るととも に、グループホームの役 割について理解を深め、 個人を尊重したケアを提 供できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼やカンファレンスの 際に理念を提唱し意識付け を行う。 ・理念を意識した介護計画 の立案に向け、カンファ レンスや意見交換を活発に行 いケアの実践に繋げる。 ・グループホームや認知症 について、勉強会等を行い 知識を深める。 ・日頃より言葉遣いやプライ バシーの確保に注意を払 い、接遇などの勉強会を通 して振り返る機会を待つ。 安心して暮らせる環境作り を行う。 ・コロナ禍に於いても家族 とのコンタクトを図り、入 居者のこれまでの生活・社 会背景の把握に努める。 ・入居者が存在意義を実感 できるよう、個人の能力に 応じた生活支援を行う。 	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

